2012 年 9 月 30 日発行

点訳通信

75号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作直通）
TEL 06-6441-0015(代表)　FAX 06-6441-0095

「猛暑」、「節電」という言葉が頻繁に交わされた夏も、ようやく終わろうとしています。ちょうど立秋を過ぎたころでしょうか、まだまだ暑いと思いながら駅のホームで電車を待っていると、顔見知りの駅員さんから、「日差しが少し秋らしくなったと思いませんか？」と言われてはっとしたことがあります。ふだん建物の中にばかりいて、微妙な気候の変化に気づいていなかったのです。私は、夏の終わりから秋にかけての時期がけっこう好きなのですが…。日常的な変化にも感覚を研ぎ澄ませていたいなと思う出来事でした。　（点字製作係　奥野真里（おくのまり））

【 お知らせ 】

10月　2日（火）英語点訳講習会開講
（隔週　全5回）

10月　5日（金）点訳技術講習会開講
（2013年3月15日まで）

10月　6日（土）振替休館

11月　3日（土）文化の日　休館

11月23日（金）勤労感謝の日　休館

(C)WANPUG

目次

◆「校正勉強会」報告・凸点字を読んでみよう！・・・・・・・・・・・・・・・2
◆第２５回専門点訳講習会「楽譜コース」が終了・・・・・・・・・・・・・・・3
◆平成２４年度教科書製作が終了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
◆ロンドン・ミニレポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
◆教科書点訳連絡会セミナーのご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

●「校正勉強会」報告

凸点字を読んでみよう！

(C) WANPUG

７月５日から８月 23 日まで全４回にわたり、校正勉強会を行いました。
25 名の申し込みがありましたが、毎回 20 名ほどでの勉強となりました。

今回の勉強会では「凸点字を読むこと」に重点をおきました。私たちは点字を入力していますが、凸点字を読み書きする機会はかつてに比べて格段に減りました。点字印刷のコンディションを確認するときや点図を印刷したときに打ち出した凸点字を読むことはありますが、それ以外では残念ながら機会があまりないのが現状です。

しかし、私たちは点字の図書を作っています。凸点字にはどのような特徴があるのか。指先で点字を読むということはどういうものか。点字図書を作る上で何を注意するべきなのか。それらを想像できればと、あえて凸点字を読む試みをしました。

１回目は、アルファベットや数字が混じった簡単な文章を墨点字（カナは併記していません）で読みました。これは全員問題なく読むことができました。

この一連の作業では原本は見ずに、点字だけで読んだことをつけ加えておきます。

２回目は、化学記号や伏せ字など記号類の混じった文章の墨点字を読みました。あまり化学記号の点訳をしたことのない人は戸惑っておられましたが、それでも日ごろの校正と同じように読むことができました。

そして、３回目に凸点字に進みました。ここでは片面で印刷したものを用意。点字用紙に打ち出された白い凸点字に慣れないせいもあり、濁音などの２マスで１文字の場合は、①②③の点と④⑤⑥の点の間隔、④⑤⑥の点と２マス目の①②③の点の間隔を見分けるのが難しく、時間がかかりました。 例えばアルファベットの小文字の「b」（⑤⑥の点に①②の点）を、カナの「ト」（②③④⑤の点）と間違えてしまうのです。でも、徐々に目が慣れてくると読むスピードも上がりましたし、段落などマスが空白のところも、何マス空いているかも区別できる方が出てきました。

〈クイズ〉　この文字はどう読む？

点字図書を作る上で、時間がかかっても実際の凸点字の特徴を知る、あるいは思い出すことは重要です。読みやすいレイアウトになっているか、点訳者注などが分かりやすく処理されているかなども、校正では確認しなくてはいけません。そのためにも、ときに原点に戻って、凸点字に触れる機会をもちましょう。

●第25回専門点訳講習会「楽譜コース」が終了

７月６日から始まった点字楽譜講習会も９月21日をもって全12回の講習を終了しました。今回の講習会には多数のお申し込みをいただきましたが、会場、カリキュラム等の都合により全員の方にご受講いただくことができなかったことを改めてお詫びいたします。そして、猛暑の中、毎週受講された皆さま、お疲れさまでした。

点字楽譜の書き方に関する講義だけでなく、特別支援学校（盲学校）の先生に音楽教育についてお話しいただいたり、当事者の方から点字楽譜との出会いや関わりについてお話しいただくなど盛りだくさんの内容でした。

以下に、受講された方の感想をご紹介します。

苦しかった「夏の思い出」

点字製作ボランティア
雪岡（ゆきおか）　加奈子（かなこ）

(C)WANPUG

幼い頃から鍵盤楽器を学んできた者としては、一度はやってみたかった楽譜点訳。講習会が金曜日に開催とあれば、この機会を逃す手はありません。できればここに至るまでに、もう少し点訳技術を上げておきたかったところでしたけれど。

始めてみれば、予想以上に細かい約束事がいっぱいで四苦八苦。たくさんの音楽記号を６点の組み合わせで表したルイ・ブライユは、つくづく頭のいい人だったんだと改めて感心しました。

加藤先生のお話はリズミカルで内容もとても面白く、聴きごたえがありました。ただ、私の集中力は90分が限度。最後の30分に何やら大事なことをおっしゃっているようなのに、私の耳と頭はすでに受け入れ不能状態。それに初心者の私には、毎週の宿題が超難物。特に「夏の思い出」の点訳はちんぷんかんぷんで、「もうお手上げ、もはやこれまで」と脱落寸前でした。

そんな時に、講習の一環として大阪府立視覚支援学校の先生方のお話を聞き、生徒さんたちが音楽の勉強に取り組んでおられる映像を見せていただきました。「こんな大変な楽譜を読んでまで、音楽をやっている！」それは私に色々な面から刺激を与えてくれました。それがきっかけで、というとカッコよすぎですが（笑）、その後は「あと一週、もう一週」という思いで何とかゴールまでたどりつくことができました。

加藤先生、締切を大幅に過ぎて講習日の当日未明に宿題を送ったことお許しくださいね。これから楽譜点訳とどう関わっていくのか、それが自分への新しい宿題です。

● 平成 24 年度教科書製作が終了

昨年の秋にとりかかった、地域の学校で学ぶ視覚障害児童・生徒のための、今年度用教科書製作が、この夏にすべて完成しました。

今年度は 63 タイトル、482 巻の小中学校用教科書を製作し、各地域のお子さんのもとへ届けました。とくに中学の教科書は改訂年度であったことや、学習指導要領が変わって内容が増量になったこともあり、完成するまでは試行錯誤を重ねました。

今回の製作に関わられた２名の方から率直な感想を聞かせていただきました。

図画工作の宿題を泣きながらやっていた子ども時代がもどってきたような・・・

（「小学校理科」製作）

点字製作ボランティア　米山（よねやま）　光代（みつよ）

わたしにとって最初の驚きは、点訳教科書は「完全オーダーメイド」（完全受注生産？）だということでした。ご存知のみなさんには当たり前のことなのでしょうけど。

だって、あの１教科だけで何冊にも（時には数十冊にも）なる教科書を小学生や中学生が毎日持ち歩いているとは考えにくかったので、データで使うことが多いんだろうと予想していたのです。

余談ですが、生徒さんによって色々なケースがあるそうですが、学校用と自宅用の２セットを用意している場合や、バインダーから必要なページだけを外して持ち運んでいる場合などがあるそうですよ。もちろん、１巻ごと持ち歩く方もいるそうです。なんていう話も、みなさんには言われるまでもないことかもしれませんが…。

わたしが担当したのは、「小学３年生の理科」の後ろ半分でした。分量は半分のはずなのに、できあがるような気がしませんでした。みなさん親切に「わからないことは聞いてね」と言ってくださいますが、何がわからないのかもわかりません。

苦労して描いた図がさっくりと、「ここは省略してかまいません」の一言で削られて、がっくりもしました。もちろん、誰にも悪気はないし、良い教科書を作るために必要なことだと理解もしています。でも、図画工作の宿題を泣きながらやっていた子ども時代が戻ってきたようでした。奥野さんには「図画工作の得手不得手と、エーデルとは、あんまり関係ないですよ」と言われてしまったのですが…（精進します）。

図によって「できるだけ原本に忠実に」だったり、簡略化していいものもあるし、「言葉で説明すれば充分」というものもあって、その区別の手がかりはどこにあるのかが見当もつかず、四苦八苦しました。現在でもやっぱりよくわからないのですが。

地図に盛り込まれた情報のうち、どこまでを点図にすればいいのか

（「中学校歴史」製作）

点字製作ボランティア　和田俊行（わだ としゆき）

点訳の初心者ながら中学校の歴史教科書の点訳作業に参加させていただいた。自分なりに印象に残ったことを述べてみたい。

一番の不安は点訳教科書の完成までの工程が全くイメージできないことだった。今やっている作業が全体のどの辺りになるのか、終点が見通せないということでの焦燥感があり、これに上乗せして今回は前半部分を春休みまでに完成するということで後ろが切られている。教科書の宿命だが時間が気になる。二重の焦燥感。強く印象に残っている。

教科書点訳の決まり事がある。例えば教科書ページを点訳書ページ行に記入することなどだが、本文に訂正があり行が前後するとその都度教科書ページの再確認が必要になる。根気よくフォローしなければならない。

教科書では様々な表が出てくるが、小原さんからバラエティに富んだ表の記載方法をお教えいただいたことは今後大いに役立ちそうでありがたかった。

歴史という分野なので地図などエーデルを使った点図が頻繁に出てくる。海岸線、国境線、河川などの点種（大きさと間隔）の扱い、地図に盛り込まれた情報のうちどこまでを点図にすればいいのか。また２枚続きで１枚の点図を作成するときの継ぎ目の左右の連続性にも神経を使う。

さらに点図に表しにくい部分を地図から読み取って文章で示す時の必要かつ十分な正確さについても考えさせられた。インターネットなどを活用して情報を収集する訳だがどこまで記述として補うのか、教科書にない余分なことにまで踏み込んで盛り込んでいないか（自己満足との戦い）。

最終的なデータはエーデルブックにするがこれも初体験だった。BES ファイルの訂正で行がずれると凡例パターンなどもずらすなど、常に文章の訂正とそれに伴うエーデルへの影響を考えなければならない。等々

この教科書を待っている生徒さんがおられるという緊張感の中での作業だったが、特に正確な点訳作業ということの重要性を身をもって感じた。幸いなことに残る２名のメンバーの方が熟練者できめ細かいご指導をいただけ、何とか最小限の役割を果たせた（のではなかろうか）ことに感謝している。

(C)WANPUG

ロンドン・ミニレポート

奥野（おくの）　真里（まり）

今年の夏は４年に１度の祭典、オリンピックとパラリンピックが行われました。テレビの前でおもいきり声援を送った方も多いことでしょう。私は、８月 27 日から１週間にわたり、「ロンドン・パラリンピックツアー」に参加しました。パラリンピックはテレビでみるよりも何十倍もの迫力と緊張感が伝わってきて、たいへん感動しました。今回はそれ以外に訪れた場所でのエピソードをご紹介します。

ロンドンは、とにかく歴史を重んじる町で、いたるところに著名人の功績を称えてつけられた地名や、記念して建てられた建築物などが多く残されています。その一つ、歴史的な教会・ウェストミンスター寺院には、ニュートンやディケンズなど世界的に名高い人物の像や石碑があり、一部それらに触ることができました。その中で私が個人的に注目したのは、英国の保守党の政治家であり、ビジネスマンとしても成功を収め、自身も視覚障害者であったイアン・フレイザー（Ian Fraser）氏の石碑です。彼は第１次世界大戦で失明しますが、失明した傷痍軍人のためのチャリティー団体（セント・ダンスタンズ）の代表を務めるなど積極的に活動する一方、政治家、ビジネスでも活発に活動していたようです。寺院の入り口に建てられている石碑には、英語点字も刻まれており、視覚障害者として着実に活躍されていたことを私たちに訴えかけているようでした。

→イアン・フレイザーの石碑に触る

また、短時間でしたが大英博物館を訪れました。ロゼッタ・ストーンや、エジプトの王様の像のレプリカなどに触ることができました。触れる展示物には英語点字で作品名やその展示物に関する解説が書かれていて感動しました。ただ、点字が欠けてい

たり、摩耗しているところも多く見受けられ、あまりこまめにメンテナンスされていないようなのは残念でした。

さて、ロンドン市内を歩いていると、点字ブロックをあちこちで見かけました。警告を示す丸いブロックも、方向を示す線状ブロックもありましたが、使い分けは日本と違うようでした。形状も日本の点字ブロックと少し違いますが、足でブロックを確認できたときは、やはり安心しました。

←↑

エジプトのさまざまなレプリカ像

一方、皆さまもよくご存知だと思いますが、日本の大きな交差点には多く設置されるようになってきた音響信号機。でも、ロンドンで音響信号機のついた交差点をわたることはほとんどありませんでした。音響信号機を見たのは、ロンドンに滞在中１箇所だけ。いったい、英国の視覚障害者は外出するとき、どうしているのでしょう。

そこで、オックスフォード大学を見学した際に出会った視覚障害の女性に、交差点をわたるときの手掛かりを聞いてみました。すると驚きの回答が返ってきました。

信号機は押しボタン式になっていてボタンを押すと、青信号に変わると同時に信号機の下にねじのようなものがついていて、それがクルクルと回りだし、視覚障害者はそれを触って確認して横断するのだそうです。

さっそく信号機を触って確認してみると、信号機のボタンを押して待つこと数秒。青信号に変わった瞬間、直径１センチくらいのねじのようなものがクルクルと回転しだしたのです。そして、赤信号に変わるころには回転が減速しゆっくりと止まるという仕組みになっていました。大きな交差点では音響信号機の音が聞こえにくいことも

ありますので、このようなシステムはよく考えられていると思いました。ただ、青信号に変わるまでじっと信号機に手をふれていないといけないとなると、雨の日などたいへんではないだろうかと思いましたが、初めて出会うタイプの信号機にかなり感動しました。

ほかにも、エレベータのボタンについている点字表示や浮き出し記号、駅のホームドアなど日本でも見かけるおなじみのものもありました。私の滞在期間が短かったのでそれほど多くの情報は得られませんでしたが、もっと探すと英国ならではのシステムや点字表示も見つかったかもしれません。機会があれば、またいつか訪れてみたいと思います。

→大英博物館の
エレベータボタン

●「教科書点訳連絡会」セミナーのご案内

英語点字指導の現状
もう一度英語略字の重要性を問い直す

日時：平成 24 年 11 月 23 日（金・祝）　13 時～16 時半（12 時半より受付）
場所：愛知県図書館（名古屋市中区三の丸１－９－３）
テーマ：「英語点字指導の現状～もう一度英語略字の重要性を問い直す」
定員：100 名
参加費：会員 500 円、非会員 1,000 円

＊ 氏名、所属先、ご連絡先を明記の上、メールかファックスで下記までお申し込みください。
日本ライトハウス情報文化センター・奥野
メール：okuno@lighthouse.or.jp
ファックス：06-6441-0095　（電話：06-6441-0015）